

平成29年7月20日（木） 全校集会 校長講話

4月の始業式、入学式から今日まで、学校で授業のあった日は、計72日でした。その他、休日の多くを費やして、部活動などの様々な活動に、皆さんは取り組んできました。明日から夏休みに入るということで、今日は一つの節目の日となります。3期制の学校では、今日が1学期の終業式の日となります。

皆さんは、4月からの4か月の間、日々の学習や諸活動にひたむきに取り組んできました。中でも、ランニングタイムやスパイラルタイム、特設陸上部の活動に、全校生が自ら取り組む姿を見て、さらに工夫をしていけば、都路中生の持っている力を一層伸ばすことができるという可能性を感じています。また、英語検定や漢字検定の受検者も増加し、ブリティッシュヒルズ英語研修やいわき志塾への参加者も多数見られ、都路中生の中に、マグマのような熱い気持ちが育ちつつあることを頼もしく思っています。さらには、卓球部が県中大会、バレーボール部が県大会に出場するまでの力を付けたことは、これまでの多くの方々の支援によって、都路中学校の総合力が高まりつつある結果だと思っております。

ここで、皆さんに、生徒作文（別紙）を紹介します。

この作文は、平成26年度「ふくしま子ども宣言」作文コンクールで最優秀賞を受賞した、当時小学6年生の小豆畑 咲季さんの作品です。この作品には、支援をしてくれた酪農家の方々への感謝の気持ちとともに、「未来はまだ何も決められていなくて、自分がつくり出していくものなんだ。」 だから私は、「人のために行動できる強い意志を持った人間になりたい」という小豆畑さんの強い決意が述べられています。

都路中生の「人のために行動できる」気持ちは、他校生と比べて、決して勝るとも劣らないと認識しています。ただし、小豆畑さんの言葉を借りれば、「人のために行動できる」気持ちが、「強い意志を持った人間になりたい」という＜志＞にまで高められているかということ、都路中の生徒は、まだまだ心許ないのではないのでしょうか。

私は前期の始業式において、「私たちはいつまでも下を向いて、誰かに頼ってばかりではいけない。よりよい未来の都路、日本、世界と、幸せな自分の人生を創り出すことができるような力を身に付ける必要がある」ことを皆さんに伝えました。そして、この1年間、「3つのC」を大切にすることを提案してきました。チャンスを自分からつかみ、失敗を恐れずにチャレンジして、自分を変えること、自分の殻を打ち破ることです。

未来は誰にも予測できない時代になりました。周囲の空気を読んで、それに自分を合わせるという考え方はもうやめましょう。自分が自分自身の中に、新しい風

を吹かせる。自分たちが、都路中に新しい風を吹かせてやる。やがては自分たちが、日本そして世界そして未来へと、新しい風を吹かせよう。そのような大きな志を持って努力できる人が、ここ都路中から生まれることを目標にして、生徒・先生・地域の皆さんと共に、都路中学校をもっと魅力ある学校にしていきます。

さて、明日から、35日間の夏休みが始まります。何よりも、安全で健康な毎日を過ごしてほしい。自分の命はもとより、友達や周りの人の命も大切にしてほしいと思います。特に、熱中症や交通事故には、十分に注意してください。また、規則正しい、目的を持った一日一日を積み重ねてください。

「未来はまだ何も決められていなくて、自分がつくり出していくものなんだ。」

皆さんのさらなる飛躍を期待します。